

2024年6月12日開催「AOYUZU -Salon de Digital-」
第13回の開催概要をご紹介します。



登壇者：
三菱UFJニコス株式会社
常務執行役員 安田 裕司氏

モデレーターとして、三枝幸夫氏（弊社 社外取締役、
クールスプリングス株式会社 Founder&CEO、出光興
産株式会社 シニアアドバイザー）を迎え、セミナーを
開催。「**金融機関におけるデータ利活用とリスク管
理**」についてご紹介いただいた。

【概要】

リーマンショック後の規制に端を発した「守り」か
ら、ビックデータ基盤の構築やデータ利活用といった
「攻め」への展開、またカード会社におけるAI活用事
例を踏まえて、施策の推進部門とリスク管理部門は、
相互に理解しあい、漠然とした「不安」を具体化する
ことが重要で、それによって現状との比較考量や対策
が可能になること。リスク管理部門のメンバーのスタ
ンスとして、正しくリスクを評価する上でも、自らの
業務に活用する意味でも、早期からプロジェクトに参
加する必要があることを感じている。

【ビックデータ基盤「OCEAN」とデータ利活用】

金融業界では、従前より業務展開を行う上で膨大なデ
ータを取り扱っており、当時の東京三菱銀行において
も、2003年にZEUSという経営情報システムを構築し
ている。しかし、2008年のリーマンショックがデータ
活用にとって大きな転機となる。各金融機関のリスク
に関するデータの集計能力に課題があり、結果として
当局においてもリスクの把握が適切に行えず、世界的
な経済危機を招いたという一因ともなった。その反省
に立ち、2013年にバーゼル銀行監督委員会が、いわゆ
る、BCBS239「実効的なリスクデータ集計とリスク報
告に関する諸原則」を公表し、主要行では、リスク管
理領域を中心にデータガバナンス態勢を整備した。20
14年にはMUFGにCDOを設置、各種統制活動やデー

タ品質モニタリングなどを開始し、「守り」の活
動を充実させた。

2017年からは「守り」から「攻め」へと、整備し
たデータの利活用の検討にも着手、同じく2017年
にMUFGが出した「クラウドファースト宣言」の
下、クラウド上でのビックデータ基盤「OCEA
N」の構築を開始、2019年にリリースした。

「OCEAN」においては、情報系システム・BIツ
ールの乱立、Excelシートのバケツリレーなど、デ
ータ集約・分析に係る課題の解決を目指した。構
築に際しては、「目的の壁」「コストの壁」「セ
キュリティの壁」があったが、リスクを洗い出
し、一つ一つ丁寧に説明・合意することで、それ
らを乗り越えた。「OCEAN」に設定したセキュ
リティルールや実装機能は、現在ではクラウドを
活用する際のセキュリティ基準となっている。

「デジタルレポート施策」を推し進め、「OCEA
N」&BIツールの活用を原則とするレポート作成の
効率化・活用レベルアップを実現。データの蓄積
やアクティブユーザー数も大量となり、日々の業
務における中核的位置づけとなった。「クラウド
化」「セルフサービス化」「アジャイル開発」を
通じ、多くの社員をデータ利活用の波に巻き込む
ことに成功した。

【AI活用と今後の展望】

三菱UFJニコスでは、早くからAI活用に取り組
み、2018年からDataRobotを活用した入電予測・
DM送付先選定・退会防止に成果を挙げ、2023年
にはカードの不正利用検知においてAIを導入し
た。近年、不正使用の手法は著しく多様化・高度
化し、不正使用被害額が年々過去最悪を大きく更
新といった状況であるが、「人的ノウハウ・知
見」×「AI」で業界最高水準の不正抑止精度に繋
げている。

また、2023年からは生成AIの利用にも着手し、翻
訳、長文要約、コールセンターのスクリプトやVB
A生成などに活用している。

施策推進とリスク管理部門は対立軸で捉えられが
ちだが、現在CROという立場でもある安田氏は、
リスク管理部門のメンバーに、リスクを正しく評
価する意味でも、自らの仕事に活用する意味で

も、新技術に興味を持ち、早期から使ってみることを強く説いている。生成AI導入に向けたPOCの一つにもリスク管理部門の効率化案件を採り上げた。

本件に関するお問い合わせ先：
IIMヒューマン・ソリューション株式会社
03-4333-1111 / web@iimhs.co.jp

本資料は弊社が登壇者に許可をいただき記載している内容となります。事前の許諾なく無断で複製、複写、転載、転用、編集、改変等は固くお断りしております。